

平成21年9月期 第2四半期決算短信

平成21年5月14日

上場取引所 大

上場会社名 株式会社アドバンスクリエイト

コード番号 8798 URL <http://www.advancecreate.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 濱田 佳治

問合せ先責任者 (役職名) 取締役常務執行役員経営管理本部長 (氏名) 村上 浩一

TEL 06-6204-1193

四半期報告書提出予定日 平成21年5月15日

配当支払開始予定日 —

(百万円未満切捨て)

1. 平成21年9月期第2四半期の連結業績(平成20年10月1日～平成21年3月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
21年9月期第2四半期	3,104	—	261	—	115	—	72	—
20年9月期第2四半期	3,566	△22.2	233	20.0	114	29.1	△106	—

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
21年9月期第2四半期	675.88	674.79
20年9月期第2四半期	△942.34	—

(2) 連結財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率		1株当たり純資産	
	百万円	%	百万円	%	円 銭	%	円 銭	
21年9月期第2四半期	6,996	—	3,709	43.7	28,763.06	—	—	
20年9月期	7,196	—	3,858	44.0	29,656.59	—	—	

(参考) 自己資本 21年9月期第2四半期 3,059百万円 20年9月期 3,164百万円

2. 配当の状況

(基準日)	1株当たり配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	年間
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
20年9月期	—	—	—	—	—
21年9月期	1,500.00	—	—	—	—
21年9月期(予想)	—	—	—	1,500.00	3,000.00

(注) 配当予想の当四半期における修正の有無 無

平成21年9月期第1四半期の配当の原資は、資本剰余金であります。詳細は3ページ「資本剰余金を配当原資とする配当金の内訳」をご覧ください。

3. 平成21年9月期の連結業績予想(平成20年10月1日～平成21年9月30日)

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭	
通期	6,400	△4.3	750	510.6	550	—	400	—	3,748.72	

(注) 連結業績予想数値の当四半期における修正の有無 有

4. その他

- (1) 期中における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) 有
新規 1社 (社名 Advance Create Reinsurance Incorporated) 除外 1社 (社名 株式会社アドバンスライフパートナーズ)
- (2) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 有
(注)詳細は5ページ【定性的情報】4. その他をご覧ください。
- (3) 四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更(四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更に記載されるもの)
① 会計基準等の改正に伴う変更 有
② ①以外の変更 有
(注)詳細は5ページ【定性的情報】4. その他をご覧ください。
- (4) 発行済株式数(普通株式)
- | | | | | |
|----------------------|-------------|----------|-------------|----------|
| ① 期末発行済株式数(自己株式を含む) | 21年9月期第2四半期 | 112,391株 | 20年9月期 | 115,391株 |
| ② 期末自己株式数 | 21年9月期第2四半期 | 6,028株 | 20年9月期 | 8,688株 |
| ③ 期中平均株式数(四半期連結累計期間) | 21年9月期第2四半期 | 106,630株 | 20年9月期第2四半期 | 113,343株 |

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

- 当連結会計年度より「四半期財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第12号)及び「四半期財務諸表に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第14号)を適用しております。また、「四半期連結財務諸表規則」に従い四半期連結財務諸表を作成しております。
- 本資料に記載されている当社の業績見通しは、本資料の日付時点において入手可能な情報による判断及び仮定を前提にしており、実際の業績は様々な要因によって異なる場合があります。

資本剰余金を配当原資とする配当金の内訳

平成21年9月期第1四半期の配当のうち、資本剰余金を配当原資とする内訳は以下の通りであります。

基準日	第1四半期末
1株当たり配当金	1,500円
配当金総額	160百万円

(注)純資産減少割合 0.047

定性的情報・財務諸表等

1. 連結経営成績に関する定性的情報

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、世界的な金融市場の混乱とそれに伴う世界経済の大幅な減退が顕在化し、急激な円高と輸出企業の業績悪化、株価下落など、国内経済は大幅な後退局面に入りました。個人におきましても雇用環境の悪化、先行きの不透明感等により生活防衛意識は拡大、買い控えや節約型志向へと消費者マインドは急速に悪化しております。

このような状況の中、当社グループは「お客様が最適・快適な購買環境で、簡単便利に保険を購入いただく」ことを目標に掲げ、日本最大級の保険比較サイト「保険市場（ほけんいちば）」を中心に、Web検索エンジンや大手ポータルサイトから個人のブログまで、1万を超えるインターネット・サイトと連携することで、より多くのお客様に「生活防衛」としての保険見直しサービスをご提供してまいりました。また、より深く保険の知識を得たい・相談したいとご希望のお客様には当社のリアル店舗である「保険市場」をご案内し、また通信販売をご希望のお客様にはコールセンターを、また簡略化をご希望のお客様にはネット完結型商品をと、ますます多様化するお客様のご要望にお応えできる体制を構築し、お客様本位の取組みをしてまいりました。

なお、店舗につきましては「より便利に、より分りやすく、より快適に」をコンセプトとする店舗形態で3大都市圏を主体に出店を進め、「Web to Real」の機能とサービス向上に取り組んでまいります。

以上の取組みにより、当第2四半期連結会計期間における新規の保険契約件数は64千件、当第2四半期連結会計期間末の保有契約件数につきましても290千件（前年同期末比18.8%増加）となりました。また、それらの保険契約から払い込まれた当第2四半期連結累計期間における収入保険料は10,514百万円（前年同期間比9.9%増加）となりました。

この結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は3,104百万円、営業利益は261百万円、経常利益は115百万円、四半期純利益は72百万円となりました。Webサイトにおける効果的なプロモーション活動の確立と更なる試行錯誤、それらを当社の持つ様々な販売チャネルと結びつける「Web to Real」の手法が、景況観の中で「より安く、より良い保障」を求めるお客様のニーズとマッチし、新規契約件数は順調に増加しております。

事業の種類別セグメントの業績は次の通りであります。保険代理店事業におきましては、上述の展開により当第2四半期連結累計期間の営業収益は2,957百万円、営業利益は256百万円となりました。

広告代理店事業におきましても、上記「保険市場」で培ったWebマーケティング手法をベースとし、従来からのポスティングを中心とした「紙」の広告提案から、インターネット広告代理店への転換が実を結びつつあり、当第2四半期連結累計期間の売上高は117百万円、営業利益は18百万円となりました。

損害保険事業におきましては、営業開始初年度にあたり契約獲得がやや低迷しておりましたが、少しスローペースではありますが月を追うごとに獲得件数も増大しており、当第2四半期連結累計期間の売上高は29百万円、営業損失は0.4百万円となりました。

2. 連結財政状態に関する定性的情報

(1) 資産、負債及び純資産の状況

当第2四半期連結会計期間末の財政状態は、前連結会計年度末に比べ総資産は199百万円減少し6,996百万円、負債は50百万円減少の3,287百万円、純資産は149百万円減少の3,709百万円となりました。

資産の減少の主な要因は、売掛金の減少104百万円であります。負債の減少の主な要因は、社債の減少150百万円であります。また純資産の減少の主な要因は配当による資本剰余金の減少160百万円であります。

(2) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、前連結会計年度末に比べ22百万円減少し、1,129百万円となりました。当第2四半期連結累計期間における各キャッシュフローの状況は次の通りであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動によるキャッシュ・フローは531百万円の増加となりました。これは主に、減価償却費131百万円、売上債権の減少119百万円等によるものです。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動によるキャッシュ・フローは222百万円の減少となりました。これは主に、保険業法第113条繰延資産の取得による支出272百万円等によるものです。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動によるキャッシュ・フローは331百万円の減少となりました。これは主に、社債の償還による支出150百万円、配当金の支払144百万円等によるものです。

